

「すべての女性が安心して使える生理用ナプキンを」

ジョン・ヒョミン（韓国）

昨年は、女性の健康や環境衛生面での取り組みにおいて韓国にとって非常に重要な一年でした。韓国で使い捨て生理用ナプキンが生産されてから50年以上になりますが、初めて、安全性の問題が公になり、生理用ナプキンの副作用や被害について3,009人が声を挙げたのです。このような生理中の健康被害は、主流のナプキンの万能性に疑問を投げかけ、女性が受けた被害の経験を科学の見識へと統合することが強く要請されています。

その結果、私たちは、国内で生産・流通されている生理用ナプキン666種をすべて調査しました。また今年10月末までに生理用ナプキンの全成分の表示制の導入も決まりました。環境部を中心に、使い捨て生理用ナプキンの副作用の健康調査も行われています。十分ではありませんが、このような調査が行われるのは世界に類のない成果といえます。まず、力強くこの活動をサポートしてきた全ての女性たちとお祝いをしたいです。



生理用品への有害な化学薬品の使用の規制を促すプラカード

しかし、まだ生理用ナプキンの有害性の究明や安全対策の準備など、どれも実質的に解決されたものではありません。食品医薬品安全庁は昨年以來、一貫して鈍い対応で、影響を押さえ込もうとしてきました。先日のマスコミの報道を総合すると、食品医薬品安全庁の1回目、2回目の実験結果の信頼性にも疑いをかけたくなります。生理用ナプキンの全成分表示制は、技術的な難しさと営業秘密を理由に、高分子吸収体や香料などの発がん性、生殖毒性、アレルギー誘発物質などが含まれている成分の開示を義務付けていません。

企業はまた、女性の安全性の議論の中で、実質的な製品の変更点や改良点よりもむしろ「環境にやさしい」「オーガニック」「安全」などの広告のコピーを強調しています。女性の不安と安全性の議論をあおり、価格の上昇の手段としてのみ活用しています。通常よりも高価な価格で販売されたオーガニック生理用ナプキンが、実際に安全であるかどうかは証明されていません。

その一方で、ある企業は、女性たちの声に対し問題を提起した民間団体や研究者に対して、多額の損害賠償請求訴訟を起こしました。個々の団体や研究者だけでなく、これは、女性たちや市民の自発的な声やまっとうな要求を、資本論理や不当な訴訟で脅かす行為です。

靴の中敷ナプキンの議論（韓国の低所得層の子どもたちが生理用ナプキンを買うお金に困り、靴の中敷きなどで代用しているとの事実が発覚し、韓国で衝撃が広がった。）に続き、最近では、女性ホームレスの生理用ナプキンの問題が問題視され、生理用ナプキンが依然として高価格であることが明らかになりました。6月13日の地方選挙を控え、自治体の一部の候補者と政党が「無償の生理用ナプキンの支給」を公約に掲げていますが、ほとんどが若い女性に限定されており、これも「ポピュリズム公約」として攻撃を受けています。月経は、所得、年齢に関係なく、尊重されるべき基本権であり、生存権です。中央政府レベルは、公共生理用ナプキンのための予算を割り当てて確保する必要があります。

5月28日は、世界の月経の日です。28日周期で平均5日間月経が続くことを象徴して定められました。女性と月経への偏見と嫌悪が蔓延している韓国社会において、厳かで自然な月経は女性の人権の問題であり、安全な生理用ナプキンは、その出発点です。月経は繰り返し、生理用ナプキンの不安も終わることはありません。

使い捨てナプキンには、いまだ女性の健康を害する有害な化学物質がたくさん使われているが、政府や企業は適切に調査したり、安全対策を施すことをしていません。私はこの不当な現実に抗議し、安全な生理用ナプキンの普及を促す意味を問い質したいのです。



生理用ナプキンの代替品を作るためのワークショップ



布ナプキンを手作り